

【vol.25】key(キー) のあれこれ～その 1～

こんにちは、大沼です。

前回のテキストでお話した通り、今回からしばらく、
音楽の基礎理論、楽典について学んでいきたいと思います。

具体的には、

- ・ダイアトニックコードの役割
- ・楽曲の key について
- ・key とダイアトニックコードの関係
- ・key とスケールの関係
- ・正確なインターバルの捉え方

みたいな事をやる、と書きましたね。

正直な所、この辺りの知識がないと、音楽の構造というものが
全く理解できません。

上記の様な知識は、音楽をやるにあたって非常に大事なんですが、
普通に TAB 譜などを使って曲のコピーをしているだけでは、
イマイチ、重要度を実感できない部分だと思います。

その重要さを他の分野で例えると、仮に、
あなたが英語を一定以上のレベルで話せるようになりたいとして、
これから学習していくとします。

その場合の学習プロセスを大雑把にまとめてみると、

- 1、基本的な英単語とその意味を覚える
- 2、基本的な文法を覚える
(※1 を組み合わせて、意思を伝える為の基本的な作法を学ぶ)
- 3、1、2 を実際に使えるように(主に 1 人で)訓練する
(※自分の主張を文章にする、それを口頭で伝える訓練をする、等)
- 4、実際に、他者に対して 3 を使ってみる(実践)

と、場合にもよると思いますが、こういった感じになるでしょう。

このテキストで、今のところ学んでいる音楽の知識は、
上の英語の学習プロセスで言うと、1 や 2 に当たる部分です。

TAB 譜というものは、弾きたいものを弾くだけならば凄まじく便利ですが、
これを使って練習する、というのは、いきなり 3 と 4 を抜き出して、
それだけをやっている様な感じです。

もちろん TAB 譜を使って練習することが悪い事だとは僕も思いませんし、
それはそれで上達はします。(※実際、僕も昔は見てましたし笑)

ただ、このテキストを読んでいるようなあなたは、

- ・事実上、TAB 譜などが無いと弾きたい曲が弾けない
- ・曲をコピーしても、その曲で出来るようになった事を他の場所で活かせない
- ・雑誌や書籍に書いてある事の内容が理解できない
- ・好きなギタリストが、何故そういうプレイをするのか(出来るのか)?、
発想の元やルーツがわからない。

と、こんな感じで、

『今の自分が持っているものだけでは、どうにも出来ない』

みたいな実感があるのでは無いでしょうか。

音楽と英語の両者を結び付けるのは、やや強引な気もしますが、
1 や 2 で学ぶ様な、大本の地力の強化が不足している場合、
上に挙げた様な状態になりやすいわけですね。

やはり何をするにも、『基礎』をしっかり作っておかなければなりません。

色々と新しい用語が出てきたりして、慣れるまでは少し混乱するかもしれませんが、
モノとしてはシンプルな部分なので、じっくり学んでいけば普通に理解できます。

頑張ってまいりましょう。

では、前置きが長くなりましたが、今回は、今までの講座でもちょこちょこ出てきていた、『**楽曲の key(キー)**』について学んでいきます。

『key』についての解説としては、key そのものの判別法や、前回学んだ、ダイアトニックコードとの関係性など、色々な要素があるんですが、まずは最初に、『key とはなんぞや？』という事について、解説していきたいと思います。

では、いきましょう。

・そもそも key とはどういったものなのか？

さて、まずは

『「key」というものはどういったことを指しているのか？』

に、ついてなんですが、端的に言ってしまうと、

『その楽曲の基準(中心)となる音(1音)と音階(スケール)はこれですよ』

と、言う事を表したものです。

例えば、とある曲が『key=C』なのだとしたら、まず最初にわかるのは、

『その曲は「C音」を基準(中心)に(ほぼ)全て(もしくは大部分)が成り立っている』

と、言うことです。

同じように、key=F なら F 音が基準ですし、key=G#なら G#音が基準です。

まずは、**基準とする音がなんなのかがわかる**、と。

次に、聞いたことがあるかもしれませんが、key には大きく分けて、
『メジャーキー(major key)』と『マイナーキー(minor key)』があります。

この両キーについては、ざっくりと、

- ・メジャーキー＝明るい雰囲気(音楽的な感じ、響き)のキー(明るい or 明るめの曲)
- ・マイナーキー＝暗い雰囲気(音楽的な感じ、響き)のキー(暗い or 暗めの曲)

だと思ってもらえれば OK です。

続いて、key の表記としては、メジャーキーならば、
「key=C」のように、アルファベットの音名のみで表されます。

key=C や key=A のようなメジャーキーの場合、

『「それがメジャーである」というサインを省略している』

といってもいいですね。

この辺りは、コードの表記と同じです。

コードネームで「C」や「G」といった表記の場合、
実際には『C(メジャー)』のような感じですよ。

逆に、マイナーコードの場合は「Am」といった表記のように、
それがマイナーであることを表す小文字の「m」を付ける、と。

それと同じように、key を表す時も、マイナーキーの場合は
『key=Am』のように、マイナーを表す「m」が付きます。

先ほど、

『key=C という表記があったら、まずわかるのは、その key の基準となる音は C 音だと言う事』

みたいな説明をしましたね。

これは、いままで散々やってきたスケールで言うならば、
トニックの様なモノの事です。

その、key の基準となる音を指す用語として、

『トータルセンター(Tonal center)(もしくはキーセンターとも)』

という音楽用語があります。

(※キーセンター、key centerという言葉は、音楽理論の正式な用語では無いかもしれません)

『トータルセンター』とは、

- ・『(音楽用語としての)トナリティ(tonality)→調性』
- ・『センター(center)→中心』

の二つが組み合わさった言葉ですが、『センター』はともかく、
『調性(ちょうせい)』とか言われても意味が分かりませんよね。

『key(キー)』が日本語で『(音楽用語としての)調(ちょう)』なので、
『tonality(調性)』と言うのは、

・『key(調)の性質 → 今、この音楽の key はどうなってんのか?』

・『どの音を基準に見ているのか?』

・『明るいのか(メジャーキーなのか)?、暗いのか(マイナーキーなのか)?、
それとも、もっと別の雰囲気なのか?』

みたいな、『音楽の総合的な状態(聴いた感じ)が、今、どうなっているのか?』
という様な事を指しています。

と、こう説明されても、さらに意味が分からなくなっている可能性もあるので、
現時点ではなんとなくの理解で構いません。笑

もっと勉強が進めば、頭と耳でわかりますので。

さて、今は『トータルセンター』という用語が、key の基準となる 1 音を指している、
という話だったので、その 1 音を見つけないわけですが、これは単純に、
key=C なら C 音、key=Am なら A 音という様にアルファベットの音名の事を言っています。

・key=C と言うメジャーキーの「トータルセンター」は「C 音」

・key=Am と言うマイナーキーの「トータルセンター」は「A 音」

と、こう言う事ですね。

「トータルセンター」とは、基本的には「基準とする 1 音」の事を指しているので、メジャーキーだろうが、マイナーキーだろうが、「key=X(or Xm)」のアルファベットで表されている音名(X の部分)の事を指している、と。

ここは『キーセンター(key の中心)』という言葉を使った方が、
「key=C のキーセンターは C 音」みたいな感じで、
理解しやすいような気もしますが、それは置いておきましょう。

どちらにせよ、同じことです。

で、ここで重要なのが、その key がメジャーであるか、マイナーであるかは、
トータルセンター 1 音だけを見た場合、まだ関係がありません。

なぜなら、トータルセンターとは、
中心となる 1 音のことしか意味していないから、です。

メジャーかマイナーかは、また他の要素として見ることになります。

この後、今まで学んできた、『スケール(音階)』が出てくるのですが、
長くなってきたので、今回はここまでにしましょう。

最初の方でもお話ししましたが、これから数回に渡って、
ダイアトニックコードや、スケールの知識などを絡めながら、
key の事と、楽曲の成り立ちの関係性を解説していきます。

この辺りの知識は、楽曲を分析することに常に深くかかわってくるので、
音楽をやっている限り、ずっと考えていくことになります。
(※と言うよりは、楽曲を演奏する以上、自然と意識し続けることになる)

なんだか、学校の授業のような感じになってきましたが、音楽もある種の学問である以上、しっかりと理解する為には、こういった事も学ぶ必要があるのです。

では、引き続き頑張っていきましょう。

次回に続きます。

ありがとうございました。

大沼